

自己点検・評価報告書

学東アカデミー

第一条第一項第十八条に従い、当校に関する自己点検・評価を行い、報告書を作成する。

I. 点検評価項目

評価方法

- ・A：「達成されている」あるいは「適合している」項目。
- ・B：「一部未達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が可能な項目。
- ・C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。

1. 教育理念・目標

1.1	教育理念・目標	<p>理念：進学のための日本語を教えるだけではなく、身につけた日本語を運用し、学生自ら目標の達成を目指します。そして、将来二つ以上の言語を使って活躍できる人材育成を目指し、国際社会の貢献に寄与します。</p> <p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一流大学の進学を目指します（東京大学、早稲田大学、慶応義塾大学等）。 2. 学力が十分な学生に対して、大学及び大学院合格に必要な準備時間の短縮を目指し教育を行います。 3. 留学生が大学及び大学院進学後も講義についていけるような読解力や文章力の教育も行います。また、進学先では、日本人との交流が積極的に行え、日本語でのコミュニケーション能力の向上を目指し教育を行います。 4. 日本での留学生生活を通じて、日本文化と異文化を体験するとともに日本人の習慣・考え方の違いを知り、日本人の立場から物事を考えられる国際人を養成します。
-----	---------	---

	点検・評価項目	評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
1.2	教育理念、目的、目標、育成する人物像が社会のニーズに合致している。	Ⓐ B C	新規校であること、また適正校であると認められていないため、一流大学を目指す学生を募集する。	募集時の状況による。	入れるか入れないか検討する。そして、実績を作ることが必要であると考えます。	
1.3	教育理念、目標に基づいて教育が行われている。	Ⓐ B C	現在のところまだ日本語で流暢に話せる段階にある。	4月生：初級1.2が終わり、10月生：初級1が完了し、来年度はN3を目指す。	今年度はEJUを受けることができなかったが、来年度は進学する学生が出るため、進路指導を充分に行い、学生の目標ができるようにする。	

総括	課題及び改善内容
	<p>教育目標を達成するために、コース別カリキュラムを作成し、それによって現在まで教育を行ってきた。また、当校を卒業してそれぞれの進学先またその就職先で必要となるのは、日本を知り、日本語をコミュニケーションをとることができる能力を身に付けることが必要であると考えている。そのためには、十分なコミュニケーションをつけることにも力を入れて教育を行ってきた。今年度はまだ一年未満であるため、評価はBとした。来年度も継続して教育を行っていく。</p>

2. 学校運営

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
2.1	日本語教育機関の告示基準に適合している。	Ⓐ B C	適合している。			告示基準に基づく
2.2	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。	Ⓐ B C	開校前から設置代表者から教職員に伝えている。			
2.3	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営が行われている。	Ⓐ B C	行われている。			
2.4	意思決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能している。	Ⓐ B C	毎日教職員の間で情報交換し、共有してきた。		来年度からは定期的に職員会議を開き、伝達事項を共有していく。	
2.5	予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確である。	Ⓐ B C	行われている。			
2.6	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有化する仕組みがある。	A Ⓑ C	教育、海外事情については適宜情報収集を行っている。	専門学校大学の留学生担当者と情報交換を行う。		
2.7	教育内容を含む最新、かつ、正確な学校情報を開示していて、入学志願者の理解できる言語で行うよう努めている。	Ⓐ B C	中国語で作成し、中国語で説明できる職員を配している。			募集要項
2.8	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。	Ⓐ B C	開校時より教務事務が一体となり、対応している。		留学経験心理カウンセラーを有する者を置く。	
2.9	業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。	A Ⓑ C	自己点検を行うのは初めてである。日振協の手引きを参考にした。			
2.10	校長、主任教員による、教員、事務職員の統括ができている。	Ⓐ B C	現在まで職員一致の下で、行っている。	毎日連絡及び伝達を行う。		

総括	課題及び改善内容
	<p>4月開校時より現在まで、学校運営については事務、教務一体となって取りくんできた。教職員会議も行ってクラス状況の把握など行ってきた。</p> <p>2-1：教職員の配置、コースカリキュラム、校舎など告示基準に適合している。</p> <p>2-2:3.5 経営目標については明確化されている。来年度以降、募集活動を円滑に行う目標の達成を目指す。</p>

3. 教育活動の計画

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
3.1	理念・教育目標に合致したコース設定をしている。	Ⓐ B C	留学2年、1年半コースを設置している。			資料
3.2	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。	Ⓐ B C	編成している。			
3.3	国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている。	Ⓐ B C	設定している。	月テスト、学期末校内模試による。		
3.4	教育目標に合致した教材を選定している。	Ⓐ B C	選定している。	JLPT、EJU合格	教材の使い方指導法を一致する。	
3.5	補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。注：教材等の著作物（電子媒体を含む）の複製について著作権法上の制限事項・禁止事項を教員及び学生に伝えなければならない。	Ⓐ B C	留意している。	教材は一括購入して配布している。		
3.6	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。	A Ⓑ C	教育方法については難しい面もある。	それぞれの教育機関での教育方法の相違による。	できれば新人を育てていく。	
3.7	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	Ⓐ B C	配置している。			
3.8	体験を生かした学習、学生の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習など、学生の主観面へのアプローチを取り入れた授業運営ができています。	A Ⓑ C	現在の状況は自発的な学習から行われている状況に至っていない。	テストの結果を見て。	学生の最終目的はどこにある何、さらに面談の機会を増やす。	

総括	課題及び改善内容
	<p>3-1. 2. 4. 学東アカデミーでは学校の授業だけでJLPT、EJUに対応できるカリキュラムを組んでいる。従って、それを達成するための教材を選定し、コミュニケーション能力を養うと同時に、四技能を身につけ、進学或いは就職した後も対応できるようにしている。</p> <p>3-5. 著作権の制限事項を把握し教材を配布している。</p> <p>3-6. 常に教材の使い方など問題がある場合は話し合う。目標達成のために効果的な教育方法も話しあう。</p> <p>3-8. 現段階では相手の話を聞き、自分自身の意見、考えを伝えることができる段階と考える。</p> <p>今後はグループワークなど積極的に取り入れていく。</p>

4. 教育活動の実施

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
4.1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	Ⓐ B C	4月期生、10月期生とも現在の段階では適切であると考ええる。			告示基準第1条第1項第9号
4.2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。	Ⓐ B C	伝達している。	常に担当教員からクラス状況を聞く	問題点を相談しながら教育方法を考える	
4.3	開示されたシラバスによって授業を行っている。	Ⓐ B C	学期毎、月毎に授業計画を作成し、担当教員に配布している。	計画に基づいて教育を行う		
4.4	授業記録簿等を備え、実施した授業を正確に記録している。	Ⓐ B C	記録している。教員のフィードバックに役立てる			
4.5	期間ごとの各課程の到達目標が達成できている。	A Ⓑ C	毎月、月テストを行い、到達度を確認している。円滑なコミュニケーションを目指す。	4月期生についてはJLPTN2、N3を受験した。		
4.6	体験活動、行事などの実施・管理体制ができています。	A Ⓑ C	学年末に行う予定である。	夏休み前はまだ入国したばかり、コロナ禍で活動できなかった。	感染対策を徹底した上で行えるようにする	
4.7	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	家庭学習などの方法についてアドバイスを与える。	留学経験担当を配置している。	
4.8	特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。	A Ⓑ C	現在の状況においては特に必要ない。	経費支弁など問題ない学生である。	今後も経費支弁に問題ない学生を募集する。	

総括	課題及び改善内容
	<p>開校当時からシラバスに従って授業を行ってきた。個別指導が必要な学生に対しても補修授業を組んできた。体験活動、課外授業については入国が遅れてきたこともあり、学生がそろわぬが遅れた。今学期には消防体験、課外授業を行う予定である。4-1. クラス編成を行っている</p> <p>4-2. 授業開始前（入学前）から入学時に提出された就学理由、国内での成績などを伝えている。</p> <p>4-3.4. シラバス、カリキュラムに従って授業を行っている。授業記録は記録している。</p> <p>4-5. 4月、10月にそれぞれ入学したが現段階では達成できている。しかし、日本人との交流ができるまでのコミュニケーション能力は未だ到達していない。</p> <p>4-5. 開校してから4月生が全員入国したのは6月で、また10月生も10月半ばになってからであったため。未だ、学校全体での行事はできていない。令和4年12月のJLPTも終了したので、コロナによる感染状況を見ながら、3月までに今年度の行事を行いたい。</p> <p>4-7.8. 進学指導、学習指導、生活指導、それぞれ教務と事務が協して行っている。今後も連携して指導にあたる。また、心理カウンセラーの資格を有する職員を配置し、問題が起きる前に学生、仲介、保護者と連携して指導できる態勢を整えている。</p>

5. 成績判定と授業評価

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
5.1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。また判定基準と方法を開示している。	A(B)C	各学期とも行ってきた。	入学してからまだ1年経過していない。	今後も学期末試験、復習テストを行っていく。	
5.2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。	(A)BC	伝えている。			
5.3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	A(B)C	まだ2年コース、一年半コース修了していない。	新規校である。	1年後に判定基準妥当であるかを見直す。	学則
5.4	授業評価を定期的に行っている。	A(B)C	実施している。	授業記録学生から要望を聞く。	授業見学をして指導方法を改善する。	
5.5	評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である。	A(B)C	今は1年経過していないため、学期末に判断する。			
5.6	学生による授業評価を定期的に行っている。	(A)BC	実施している。	学生から担当教師のアンケートを取る。	授業を見学する。	
5.7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されている。	A(B)C	これについても一年半、2年コース修了後に結果を見る。		勉強会に参加或いは校内で勉強会を開く。	

総括	課題及び改善内容
	<p>教員の指導に置ける質を上げることが重要であると考え。来年度からは学生も増加が見込まれているので、各クラスで教員が連携し、問題点、クラス状況などの意見交換を行っていく。</p> <p>教育目標を達成するために、各教員がそれぞれの教育機関で養ってきた知識に囚われることなく、学生の成績向上のためにどのような指導法が良いかを検討していく必要がある。</p>

6. 教育活動を担う教職員

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
6.1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	Ⓐ B C	定めている。			入管告示基準
6.2	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している。	Ⓐ B C	明示している。			
6.3	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化している。	Ⓐ B C	している。			
6.4	教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止限を明確に定めている。	A Ⓑ C	定めているが、ハラスメントについてはこれからである。			
6.5	教員及び職員の評価を適切に行っている。	A Ⓑ C	現段階では最終の評価は行うことができない。	新規校である。	2年コース、一年半コースそれぞれが修了した段階で最終評価を出すことが望ましいと考える。	

総括	課題及び改善内容
	<p>教務に関する職務内容について、現在は主任が作成したテストを採用している。しかし、これからは専任も協力してテスト作成、教材作成などができるようにしていきたい。</p> <p>6-4. 現段階では特に問題はない。しかし、今後、学生が増加していくため、異文化への理解言動について、何が問題になるかを教職員で話し合い明確に定めていく。</p> <p>6-5. 教職員の評価は学生からの声が最も判断しやすいと考えるが現在は、学生の中には、拒む学生もいるので、難しい面もある。各教室にカメラを設置しクラス活動が見えるようにしている。</p>

7. 教育成果

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
7.1	入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適正に管理している。	A(B)C	開校時から現在までは保管している。			
7.2	修了・卒業の判定を適切に行っている。	A(B)C	まだいない。	開校一年未満である。		
7.3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。	A(B)C	学東アカデミーの学生としての受験は令和4年12月JLPTが第1回目である。			
7.4	卒業または修了後の進路を把握している。	(A)BC	まだ卒業生はいないが、学期末(令和4年8月、12月)の面談時に聞き取り、それに向けてのアドバイスを行う。		令和5年度は進学説明会実施予定。	
7.5	卒業生及び修了生の状況を把握するための取組みを行い、進学先、就職先等での状況や社会的評価を把握している。	A(B)C	まだ卒業生がいない。		卒業生を送り出した際には、進学先、就職先それぞれの担当者から状況を聞く。	

総括	課題及び改善内容
	<p>7. 1 今年度は4月入学、10月入学以降、毎日、各時間毎に授業を記録し、授業での問題点など教員で話し合っ進めてきた。現段階ではまだ一年経過していないため、一部未達成とした。これは2年後、カリキュラム、教材の適合性を精査する上で重要な記録となる。</p> <p>7. 2 現在はまだ修了、卒業生を送り出していないため「C」とした。今後も各月テスト、学期末試験、生活態度、授業態度を考慮して判定を行っていく。</p> <p>7. 3. 4 開校してからJLPTのEJUの結果はこの調査段階では1回であるが、1月以降、来年度も十分に把握し、進路指導を行っていく。</p> <p>7. 5 まだ進学した学生はいないが、学生が進学した場合は記録を残し、進学後も進学生の留学生担当者に連絡を取り、学習状況など把握していく。</p>

8. 学生支援

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
8.1	学生支援計画を策定し、支援態勢を整備している。	A(B)C	開校一年目の4月、10月入学前に、寮の備品整備。入学後のオリエンテーションでも日本での生活について説明を行う。これからも支援体制は整っている。			
8.2	学生の心身、健康管理等のサポート体制が整備されている。	(A)BC	整備されている。		母語で相談できる職員を配置している。	
8.3	日本社会を理解し、適応するための取組みを行っている。	A(B)C	現段階では授業の中でも日本で生活するための規則などについて自国と比較しながら検討している。		令和5年2月に消防体験。また、来年度以降は警視庁生活安全課の方を招き、日本での生活する規則について説明する。	
8.4	留学生活に関するオリエンテーションを学期始、学期末に実施し、また毎月学生調査を行い、在籍者全員の所在と生活状況を把握している。	(A)BC	把握している。現段階ではアルバイト先を訪問している。		学生が増えた場合も所在生活状況については専任と生活指導担当者と協力して行う。	
8.5	住居及び生活環境への支援を行っている。	(A)BC	行っている。	アルバイトの紹介などを行う。		

8.6	母国の保護者（支弁者）と適切に連携している。	Ⓐ B C	連携している。	病気、成績不振の場合、連絡し、連携して指導を行う。		
8.7	健康、衛生面について指導する態勢を整えている。	Ⓐ B C	整えている。	登校時は検温、消毒を行う。		
8.8	対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて留学生保険に加入している。	A Ⓑ C	加入している。留学生保険には未加入である。	入学時に職員が区役に行き、手続きを行う	来年度から留学生保険について加入する	
8.9	重篤な疾病や傷害のあった場合の対応、及び感染症発生時の措置を定めている。	Ⓐ B C	定めている。			
8.10	交通事故等の相談態勢を整備している。	A Ⓑ C	整備している。			
8.11	危機管理体制を整備している。	A Ⓑ C	整備している。	区役所から配布されているものを配布している。		
8.12	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定め、避難訓練を定期的実施している。防火管理責任者を配している。	Ⓐ B C	避難場所は把握しているが、避難訓練はまだ行っていない。		4月期生、10月期生すべて入国済みであるので、令和5年2月に消防体験を行った後で、避難方法についてクラスで話し合い、避難訓練を行う。	
8.13	気象警報発令時の措置を定め、教職員及び学生に周知している。	Ⓐ B C	周知している。	地震の台風の際の諸注意を与える。		町会から配布された地震の際の諸注意を配布
8.15	健康診断の予定と実施状況、さらに、診断結果において問題があった学生への対策をとっている。	Ⓐ B C	取っている。四月期生については検診済み、10月期生についても1月実施、保健所に連絡済み。			
8.16	母国の文化を尊重しつつ、日本の文化を受け入れ、人間形成につながる指導やアドバイスができています。	Ⓐ B C	行っている。日本と中国それぞれの出身地の伝統文化を比較し、類似点と相違点についても話し合う。またそれぞれの良い点を伝える。			

総括	課題及び改善内容
達成できている部分もあるが、それに達していない部分は来年度整備していく。	<p>8-1.2.3.4.5:開校前から事務担当、生活指導担当と相談し、受け入れ態勢を整ってきた。これからも継続して行い、当校在学中の安全を図る。</p> <p>8-6: 入国する前のオンライン授業の段階から学習への取り組み方について相談し、現在も改善できるように連携しながら進めている。</p> <p>8-7.8.9: コロナ禍の中で入国して来る学生であったので、学生自身も感染対策について熟知していた。国民健康保険加入については入国前から学生たちに伝達し、入国後に職員或いは家族とともに加入する。</p> <p>8-10: 交通事故に限っての相談体制はまだ不十分であると思うが、母語で話せる事務担当に通訳を依頼し、対応できる態勢は整えている。しかし事故保障などの面について整えていきたい。</p> <p>8-11.12.13: 危機管理体制については、校長-教務主任-専任事務-学生への連絡の方法を取るよう定めている。年に一回消防署での地震訓練、消防訓練を予定している。</p> <p>8-15: 区の保険事務所に依頼し、入国後、保険事務所決めた日時に継続的に実施する。4月期生においては問題無とのことであったが、問題があった場合は保健所と連携し対応する。</p> <p>8-16: 授業の中でも、色々な伝統行事について話し合いをしている。学生の出身地に伝わる伝統文化。習慣についても聞き、それぞれの相違点を発見し、理解を深める。これはこれから継続的に行う。日本の文化についても周知の者以外について紹介していく。課外授業でも体験できるようにしたい。</p>

9. 進路に関する支援

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
9.1	進路指導担当者を特定している。	Ⓐ B C	特定している。	担当教員を配置している。	来年度以降、学生が増えた場合も継続して行う。	
9.2	学生の希望する進路を把握している。	Ⓐ B C	把握している。	就学理由を提出しているが、入国時のオリエンテーションで再度確認し、学期末の面談の際も確認している。		
9.3	進学に関する最新の資料を備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	A Ⓑ C	備えている。	送付されるパンフレットまた専門学校、大学の留学生担当者と学校内で面談を行う。来年度はさらに充実したいと考え、Bの評価をした。		
9.4	入学時から一貫した進路指導を行っている。	A Ⓑ C	行っている。	面談を通じて聞き取り相談を受ける。	現段階で卒業生を送り出していないので、Bの評価とした。	
9.5	進路指導を適切に行っている。	Ⓐ B C	行っている。	常に学生と対話しながら、悩みを聞き、それについてアドバイスをしている。今後も継続して行う。		
9.6	進路相談の手順、方法が明確になっている。	Ⓐ B C	明確になっている。	オリエンテーション面談を通じて学生と話し合う。また途中で変更された場合は母語を通じてその経緯を聞き、適切にアドバイスを行う。		
9.7	学校として組織的に進路指導に取り組む体制ができている。	Ⓐ B C	できている。	専任一願書の書き方、志望理由の書き方のアドバイス 教務主任一面接練習；		
9.8	教育機関、進学先との連携・協力ができている。	A Ⓑ C	一部の専門学校、大学とはできている。	学校訪問	これからさらに開拓する必要がある。	

総括	課題及び改善内容
	<p>総括：①進路指導について入学前の面接の段階から進路希望の把握を努めてきた。入学以降も、オリエンテーション学期末ごとの面談を通して進路を把握してきた。またこれ以外にも個別に行ってきた。</p> <p>②開校一年目ではあるが、大学、専門学校の説明会に参加し、オリエンテーションにも参加してきた。</p> <p>③来年度以降も継続して行う</p> <p>9-1.2.3.4.5.6.7：進路指導については、来年度からは進路説明会にも参加し、学生自ら留学生担当者に質問し、情報を得る。</p> <p>9-8:進学先との連携についてはさらにい学校訪問などをして関係を作っていきたい。</p>

10. 入国・在留に関する指導及び支援

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
10.1	入管事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	Ⓐ B C	定めている。	事務担当を特定している。		在留資格取次申請業務にかかわる研修会への出席
10.2	担当者は、研修受講等により最新かつ適切な情報取得を継続的に行っている。	Ⓐ B C	行っている。	在留資格交付情報などの情報を得る。		
10.3	出入国在留管理庁により認められた申請等取次者を配置している。	Ⓐ B C	配置している。			在留資格取次カード
10.4	出席状況の管理とフォロー体制が適切である。	Ⓐ B C	適切である。	欠席遅刻の場合は学生に連絡をする。		
10.5	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。	Ⓐ B C	行っている。	入学前の面接の段階から、入学時のオリエンテーション、学期末の際に説明を行う。		
10.6	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。	Ⓐ B C	把握している。			
10.7	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	学業不振の学生に対し、放課後個別指導を行う。		
10.8	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを継続的に行っている。	Ⓐ B C	現段階ではこれに該当する者はいない。	在留資格の更新	不法残留、資格外活動違反が多く見られる国からの募集を行わない。入学時に在学中の支弁能力を有する者を募集する。	

総括	課題及び改善内容
	現在、在学中の学生たちはコロナ禍また告示後募集を始めた学生であるため、オンラインで面談となった。来年度以降は募集担当を常駐させる準備を行っている。

11. 教育環境

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考 資料
11.1	教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。	Ⓐ B C	十分な照度がある、各教室には換気扇を設置し、窓もある。			
11.2	授業時間外に自習できる部屋を確保している。	Ⓐ B C	確保している。			
11.3	教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備し、常時利用可能である。	A Ⓑ C	メディアに関してはこれから設置する予定である。			
11.4	視聴覚教材や IT を利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。	A Ⓑ C	現段階ではオンライン授業に対応できる設備の設置のみである。これから整備する予定である。			
11.5	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。	Ⓐ B C	確保している。			告示基準
11.6	同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置している。	Ⓐ B C	設置している。			告示基準
11.7	法令上必要な設備等を備えている。	Ⓐ B C	備えている。			告示基準
11.8	廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。	Ⓐ B C	問題ない。			告示基準
11.9	施設、設備の定期的な安全点検が行われている。	Ⓐ B C	行われている。			告示基準
11.10	学校の衛生管理を行っている。	Ⓐ B C	行っている。	登校時は検温、消毒を行う。		

総括	課題及び改善内容
	<p>パワーポイントの設備もこれから行う必要がある。設備の導入と同時に、パワーポイントで授業を行う意義を理解し、使いこなせる教員の養成も必要であるとする。学校の教室トレイなどの設備は問題なく整備している。</p>

12. 入学者の募集と選考

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
12.1	入学者の募集活動が告示基準に沿って適切に行われている。	Ⓐ B C				
12.2	理念・教育目標に沿った学生の受入方針を定め、年間募集計画を策定している。	Ⓐ B C	募集計画は策定しているが、コロナ禍もあり、実行には至っていない。			
12.3	機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。	Ⓐ B C	現段階では、インターネットを通じて募集があった場合、それに応じて行っている。来年度以降は現地の大学などで説明会を行う予定である。			
12.4	教育内容、正確な学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されている。	Ⓐ B C	開示されている。			募集要項
12.5	海外の募集代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行うとともに、その募集活動が適切に行われていることを把握している。	A Ⓑ C	把握している。来年度以降は募集担当が常駐し、直接面接試験を行う予定。			
12.6	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。	Ⓐ B C	来年度以降は募集担当が常駐し、対面で面談を行う。			
12.7	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学校関係者（職員等）が面接などの調査を行うよう努めている。	Ⓐ B C	確認している。不法残留を発生させている国からの募集を今後行う予定がない。			
12.8	入学志願者の学習能力、勉学意欲、日本語能力、経費支弁能力等を根拠資料で確認する等、適切な方法によって確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。	Ⓐ B C	確認している。これらについてはこれからも継続して行っていく。			
12.9	選考料、入学金、授業料、その他納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。	Ⓐ B C	明示されている。			募集要項
12.10	関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。	Ⓐ B C	公開されている。			募集要項に明記
12.11	入学者の募集について、今後の見通しが安定している。	A Ⓑ C	今年10月にコロナ禍の影響で募集については困難も伴う。			

総括	課題及び改善内容
	当校では中国語以外、話せる事務職員を置いていない。また、中国から以外からのエージェントを知らないため、今後も募集は行わない。来年度以降は募集担当を中国国内の事務所に常駐させ、募集を行う。また、国内に日本語学校を設置し、そこから学習意欲また支弁機能を有する学生を選抜する。募集については新規校が既存のエージェントに参入するのは困難であるが、教育目標を達成するためには、安易な募集国の拡大はしない。

13. 財務

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
13.1	財務状況は、中長期的に安定している。	Ⓐ B C	新規校であるため、令和4年度の募集活動は思うような成果を上げることはできなかったから、この状況を見越して運営している。			
13.2	予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。	Ⓐ B C	保たれている。			
13.3	適正な会計処理、監査が実施されている。	Ⓐ B C	実施している。			
13.4	設置母体と学校の経営が、明確に区分されている。	Ⓐ B C	区分されている。			

総括	課題及び改善内容

14. 法令遵守

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
14.1	法令遵守に関する担当者を特定している。	Ⓐ B C	特に担当者は決めていない。学校全体で協力して行ってきた。			
14.2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組みを行っている。	Ⓐ B C	今年度は学校全体で取り組んできた。来年度も継続して取り組む。			
14.3	個人情報保護のための対策をとっている。	Ⓐ B C	取っている。			
14.4	出入国在留管理庁、関係官庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。	A Ⓑ C	遅滞なく行って行くことに努める。		それぞれ関係官庁のホームページを確認する	

総括	課題及び改善内容
	開校時より現在まで関係省庁への報告については、遅滞なく行うように努めている。しかし、現在の段階においては、まだ一年経過していないため、評価「B」の「一部の未達成」とした。今後も教務と事務が一致協力して法令の遵守に努める。 14.1については、一年目は担当者を特定せず、職員全体で協力し、努めてきた。来年度からは事務担当も経験を有するので、担当者を特定して配置する。

15. 地域貢献・社会貢献

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
15.1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	A(B)C	15.1を参照し、地元の町会組織に入り、地元近隣の方々と懇意にしている。		今年度はコロナ禍から初めての町会行事も行われてきたが、来年からは学生も積極的に参加し、日本人と交流し、文化習慣を体験していく。	
15.2	学生ボランティア活動への支援を行っている。	A(B)C	今年度は未だボランティア活動を行うような状況には至っていない。			
15.3	日本語学校について地域住民の方々に理解を促す働きかけができていない。	A(B)C	学校周辺、消防などには挨拶をし、日本学校に対する理解を求めている。			
15.4	地域の文化施設や自然、伝統行事等を学生指導に取り込み、活用できている。	A(B)C	活用している。			

総括	課題及び改善内容
	学校周辺は静かで、環境も良い。学生たちには常に日本語の習得だけでなく、日本で生活するために必要なことを伝える。また、周辺の住民にも「日本語学校」という存在を理解してもらうように、これからも交流を深める。これは学東アカデミーが掲げる教育目標、教育理念に通じるものである。

16. 学校情報の公開

点検・評価項目		評価	ア. 現状認識	イ. アの根拠	ウ. 解決方法	エ. 参考資料
16.1	ホームページ等での学校情報を適正に公表している。	(A)B C				
16.2	法令上、または社会通念上、適切な情報を公開している。	(A)B C				
16.3	入学希望者への誇大な表現、不適切な表現などがない。	(A)B C	現在までのところこのような表現はない。		今後も国際社会に貢献していく上で、常に学校全体で気をつけていかなければならない。	

総括	課題及び改善内容
	令和4年度1月までにおいてはまだ課外授業を行うことができなかった。来年度程時間を費やすことはないと思われる。従って、来年度は学校行事も公表していく。また、ほかのを通じて学校の情報を公開しているが、これについても引き続き公表していく。

II. 総合評価と改善計画総合評価

【達成状況】

令和4年度4月開校し、まだ1年未満の学校である。コロナ禍の中で募集活動も予定通りに進まなかったが、職員一致協力して開校することができた。しかし、入国までの時間がかかり、対面授業を並行して行った。ようやく6月中旬から全員対面で授業を行い、12月には学生たちの希望を聞きJLPTのN2、N3を受けた。現在まではカリキュラム通りに授業を行うことができた。まだ、学期末には学生と面談を行ってきたが、ほかにも常に学生と対話をして、生活指導を行ってきた。

【課題・改善計画等】

今後の課題：

- ①中国国内の高校、大学と連携し、每期学生募集を行っていく。これは更なる安定した経営に繋がると考える。
- ②カリキュラムは2年、一年半コースに則したカリキュラムを作成した。学東アカデミーはコミュニケーション能力をつけることを第一としているか進学するためには、JLPT高得点での合格、EJU高得点が必要である。そのためには四技能の知識が必要となる。従って、これらをクリアできる。教材を各レベルで採用している。現段階では全てのコースが修了していないので、2年後に改めてカリキュラム、教材について精査する必要がある。
- ③教員については経験がある教員を配置したが、今後は教育方法の統一を図る。

改善計画

- ①を達成するために、教務、事務との連携をさらに深める。今後も職員会議を通じて学生管理などについて問題があれば協力して指導にあたる。
- ②各コース2年、一年半ではあるが、学生の目標はJLPTの合格と進学である。そのためには、2年目の7月までには、N2合格を目指さなければならない。従って、短期間で学習効果を上げなければならない。
- ③来年度以降は日本語学部設置大学と連携し、インターンシップを受け入れ、希望者は卒業後は専任として採用していく。

III. 実施時期

年1回 毎年2月実施

IV. 実施体制

実施統括責任者：校長

実施担当者：教務主任・在留事務担当・生活指導担当・学生募集担当・経理担当

V. 実施体制概要

- ①実施月それぞれ1か月前に校長が実施についての指示を**出す**。
- ②それぞれ実施担当が、計画通り自己点検を実施。
- ③結果を集計し、共有する。
- ④全体会議にて、結果を検討し、改善案をまとめる。
- ⑤会議で決定した改善案を学校の運営、教育に反映させるため、関係各部署にて協議し、具体策を校長に報告する。
- ⑥校長は設置者に自己点検・自己評価について報告**する**。
- ⑦設置者は結果を翌年度の運営方針に反映させる。

VI. 第三者評価の実施

校内で自己点検及び評価を実施するとともに、第三者機関(日本教育振興協会等)による第三者評価を受けるべく努める。

VII. 公表方法

評価の結果は、当校ホームページに公表する。